

# 放物線の法線に関するシンプルで興味深い問題

2025/07/29

藤井 佑成 \*1

**問 1** 放物線  $P: y = x^2$  の法線弦 (法線のうち放物線の内部にある部分) を  $l$  とする。

- (1)  $l$  の長さの最小値を求めよ。
- (2)  $P$  と  $l$  が囲む部分の面積の最小値を求めよ。
- (3)  $P$  と  $l$  が囲む部分を  $l$  を軸として 1 回転するとき、通過する部分の体積の最小値を求めよ。

**問 2** 点  $Q(a, b)$  を通る  $P: y = x^2$  への法線を 3 本引き、それらの足を  $A, B, C$  とおく。

- (1)  $Q$  の存在範囲を図示せよ。
- (2) 4 点  $A, B, C, O$  は同一円周上にあることを示せ。

\*1 千葉県立千葉高等学校 3 年.

## 解答・解説

### 問 1

(1)  $P$  上の点  $A(t, t^2)$  における接ベクトルは  $(1, 2t)$  のので、 $A$  における法線の方程式は、

$$(x - t, y - t^2) \cdot (1, 2t) = 0$$

$$\Leftrightarrow x + 2ty - 2t^3 - t = 0$$

これと  $P$  のもう 1 つの交点を  $B$  とおくと、 $t = 0$  のとき  $B$  は存在しないので  $t \neq 0$  であり、上式に  $y = x^2$  を代入して、

$$2tx^2 + x - 2t^3 - t = 0$$

$$\Leftrightarrow (x - t)(2tx + 2t^2 + 1) = 0$$

$$\Leftrightarrow x = t, -t - \frac{1}{2t} \quad (\because t \neq 0)$$

より、 $B\left(-t - \frac{1}{2t}, t^2 + 1 + \frac{1}{4t^2}\right)$  となる。よって、

$$\begin{aligned} AB^2 &= \left\{ \left(-t - \frac{1}{2t}\right) - t \right\}^2 + \left\{ \left(t^2 + 1 + \frac{1}{4t^2}\right) - t^2 \right\}^2 \\ &= 4t^2 + \frac{3}{4t^2} + \frac{1}{16t^4} + 3 \end{aligned}$$

ここで  $T = t^2$  とおくと  $t \neq 0$  より  $T > 0$  であり、

$$AB^2 = 4T + \frac{3}{4T} + \frac{1}{16T^2} + 3$$

これを  $f(T)$  とおくと、

$$f'(T) = 4 - \frac{3}{4T^2} - \frac{1}{8T^3} = \frac{1}{8T^3}(2T - 1)(4T - 1)^2$$

よって、 $T > 0$  における  $f(T)$  の増減表は以下の通り。

$T$	(0)	...	$\frac{1}{4}$	...	$\frac{1}{2}$	...
$f'(T)$		-	0	-	0	+
$f(T)$		$\searrow$		$\searrow$		$\nearrow$

よって、 $T = \frac{1}{2}$  のとき  $f(T)$  は最小値  $\frac{27}{4}$  をとる。したがって、 $l$  の長さの最小値は  $\frac{3\sqrt{3}}{2}$

(2) (1) より  $t \neq 0$  であり、対称性より  $t > 0$  において考えれば十分。よって、 $P$  と  $l$  が囲む部分の面積は、

$$\begin{aligned} & - \int_{-t-\frac{1}{2t}}^t \left(x + t + \frac{1}{2t}\right)(x - t) dx \\ &= \frac{\left\{t - \left(-t - \frac{1}{2t}\right)\right\}^3}{6} \quad (\because 1/6 \text{ 公式}) \\ &= \frac{\left(2t + \frac{1}{2t}\right)^3}{6} \\ &\geq \frac{\left(2\sqrt{2t \cdot \frac{1}{2t}}\right)^3}{6} = \frac{4}{3} \quad (\because \text{相加平均} \cdot \text{相乗平均の関係}) \end{aligned}$$

よって、求める最小値は  $t = \frac{1}{2}$  のとき  $\frac{4}{3}$

(3) (2) と同様に  $t > 0$  において考えれば十分。 $P$  上の点

$C(u, u^2)$   $\left(-t - \frac{1}{2t} \leq u \leq t\right)$  と  $l$  の距離は、点と直線の距離の公式より、 $\frac{u + 2tu^2 - 2t^3 - t}{\sqrt{1 + 4t^2}}$  である。よって、法

線の傾きは  $-\frac{1}{2t}$  であることより、 $P$  と  $l$  が囲む部分のうち、 $u$  から  $u + \Delta u$  の部分が回転して通過する体積を、高

さ  $\Delta u \cdot \sqrt{1 + \frac{1}{4t^2}}$ 、半径  $\frac{u + 2tu^2 - 2t^3 - t}{\sqrt{1 + 4t^2}}$  の円柱の体積に近似できる。したがって、通過する体積は、

$$\begin{aligned} & \int_{-t-\frac{1}{2t}}^t \pi \left(\frac{u + 2tu^2 - 2t^3 - t}{\sqrt{1 + 4t^2}}\right)^2 \cdot \sqrt{1 + \frac{1}{4t^2}} \cdot du \\ &= \frac{\pi}{2t\sqrt{1 + 4t^2}} \int_{-t-\frac{1}{2t}}^t (u + 2tu^2 - 2t^3 - t)^2 du \\ &= \frac{\pi}{2t\sqrt{1 + 4t^2}} \int_{-t-\frac{1}{2t}}^t (u - t)^2 (2tu + 2t^2 + 1)^2 du \\ &= \frac{2\pi t}{\sqrt{1 + 4t^2}} \int_{-t-\frac{1}{2t}}^t (u - t)^2 \left(u + t + \frac{1}{2t}\right)^2 du \\ &= \frac{2\pi t}{\sqrt{1 + 4t^2}} \cdot \frac{1}{30} \left\{t - \left(-t - \frac{1}{2t}\right)\right\}^5 \quad (\because 1/30 \text{ 公式}) \\ &= \frac{\pi t}{15\sqrt{1 + 4t^2}} \cdot \left(2t + \frac{1}{2t}\right)^5 \\ &= \frac{\pi}{15\sqrt{2}} \cdot t^{\frac{1}{2}} \left(2t + \frac{1}{2t}\right)^{\frac{9}{2}} \\ &= \frac{\pi}{15\sqrt{2}} \sqrt{t} \left(2t + \frac{1}{2t}\right)^9 \end{aligned}$$

ここで、 $g(t) = t \left(2t + \frac{1}{2t}\right)^9$  とおき、この最小値を求め

る。積の微分法を用いて微分すると、

$$\begin{aligned} g'(t) &= \left(2t + \frac{1}{2t}\right)^9 + t \cdot 9 \left(2t + \frac{1}{2t}\right)^8 \cdot \left(2 - \frac{1}{2t^2}\right) \\ &= \left(2t + \frac{1}{2t}\right)^8 \left(20t - \frac{4}{t}\right) \\ &= \left(2t + \frac{1}{2t}\right)^8 \frac{4}{t} (5t^2 - 1) \end{aligned}$$

よって、 $t > 0$  における  $g(t)$  の増減表は以下の通り。

$t$	(0)	...	$\frac{1}{\sqrt{5}}$	...
$g'(t)$		-	0	+
$g(t)$		$\searrow$		$\nearrow$

したがって、 $t = \frac{1}{\sqrt{5}}$  のとき  $g(t)$  は最小値

$$\frac{1}{\sqrt{5}} \left(\frac{2}{\sqrt{5}} + \frac{\sqrt{5}}{2}\right)^9 = \frac{1}{\sqrt{5}} \left(\frac{9}{2\sqrt{5}}\right)^9 = \frac{9^9}{2^9 5^5}$$

をとる。よって、通過する体積の最小値は、

$$\frac{\pi}{15\sqrt{2}} \sqrt{\frac{9^9}{2^9 5^5}} = \frac{6561\sqrt{5}}{20000} \pi$$

## 問2

(1) 接点を  $(t, t^2)$  とおくと、この点における接ベクトルは  $(1, 2t)$  なので、法線の方程式は、

$$(x - t, y - t^2) \cdot (1, 2t) = 0$$

$$\Leftrightarrow x + 2ty - 2t^3 - t = 0$$

これが  $Q(a, b)$  を通るとき、代入して、

$$-2t^3 + (2b - 1)t + a = 0$$

この左辺を  $f(t)$  とおく。放物線  $P$  において接点と法線は 一対一に対応するから、 $t$  の 3 次方程式  $f(t) = 0$  が異なる 3 実数解を持つ条件を考えればよい。

$$\begin{aligned} f'(t) &= -6t^2 + 2b - 1 \\ &= -6 \left( t + \sqrt{\frac{2b-1}{6}} \right) \left( t - \sqrt{\frac{2b-1}{6}} \right) \end{aligned}$$

より、 $b \geq \frac{1}{2}$  のとき  $f(t)$  の増減表は以下の通り。

$t$	$\cdots$	$-\sqrt{\frac{2b-1}{6}}$	$\cdots$	$\sqrt{\frac{2b-1}{6}}$	$\cdots$
$f'(t)$	$+$	$0$	$-$	$0$	$+$
$f(t)$	$\nearrow$		$\searrow$		$\nearrow$

よって、 $f(t) = 0$  が異なる 3 実数解を持つ条件は、

$$f\left(-\sqrt{\frac{2b-1}{6}}\right) f\left(\sqrt{\frac{2b-1}{6}}\right) < 0$$

$$\Leftrightarrow \left\{ a - \frac{\sqrt{6}}{9}(2b-1)^{\frac{3}{2}} \right\} \cdot \left\{ a + \frac{\sqrt{6}}{9}(2b-1)^{\frac{3}{2}} \right\} < 0$$

$$\Leftrightarrow a^2 - \frac{2}{27}(2b-1)^3 < 0$$

$$\Leftrightarrow (2b-1)^3 > \frac{27}{2}a^2$$

(右辺)  $\geq 0$  なので (左辺)  $> 0$  だから、両辺  $\frac{1}{3}$  乗して、

$$2b-1 > \frac{3}{\sqrt[3]{2}}a^{\frac{2}{3}}$$

$$\Leftrightarrow b > \frac{3}{\sqrt[3]{16}}a^{\frac{2}{3}} + \frac{1}{2}$$

したがって、 $g(x) = \frac{3}{\sqrt[3]{16}}x^{\frac{2}{3}} + \frac{1}{2}$  とすると、 $Q$  の存在範囲は  $y = g(x)$  のグラフよりも上の部分。 $g(x) = g(-x)$  なので  $g(x)$  は偶関数だから、 $x > 0$  において考えると、

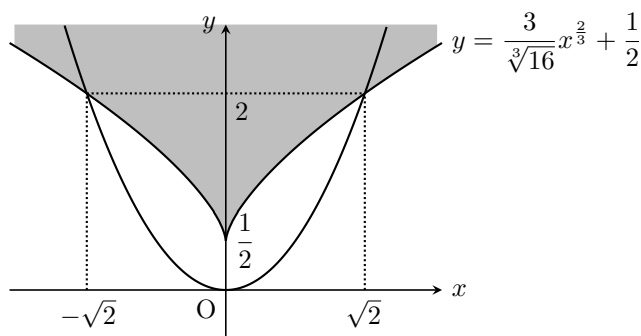
$$g'(x) = \frac{2}{\sqrt[3]{16}}x^{-\frac{1}{3}} > 0$$

$$g''(x) = -\frac{2}{3\sqrt[3]{16}}x^{-\frac{4}{3}} < 0$$

よって、 $g(x)$  の増減表は以下の通りで、 $b \geq \frac{1}{2}$  をみたら。

$x$	$0$	$\cdots$	$\infty$
$g'(x)$		$+$	
$g''(x)$		$-$	
$g(x)$	$\frac{1}{2}$	$\curvearrowright$	$\infty$

以上より、 $Q$  の存在範囲は下図斜線部。(境界を含まない)



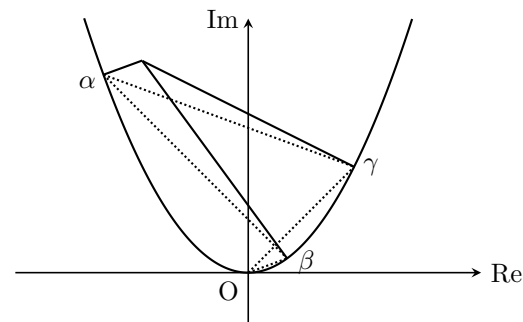
**考察** 曲線  $y = g(x)$  は  $P$  の縮閉線である。

(2)  $A, B, C$  の  $x$  座標をそれぞれ  $t_1, t_2, t_3$  ( $t_1 < t_2 < t_3$ ) としてもよい。このとき、 $t_1, t_2, t_3$  は  $f(t) = 0$  の 3 解であるから、解と係数の関係より、

$$t_1 + t_2 + t_3 = 0 \quad \cdots \cdots \cdots \ast$$

ここで、 $O$  を原点とする複素数平面において、 $A, B, C$  に対応する複素数をそれぞれ  $\alpha, \beta, \gamma$  とすると、

$$\alpha = t_1 + t_1^2 i, \quad \beta = t_2 + t_2^2 i, \quad \gamma = t_3 + t_3^2 i$$



$\beta = 0$  または  $\gamma = 0$  のとき、 $A, B, C, O$  は同一円周上にあるから、 $\beta \neq 0$  かつ  $\gamma \neq 0$  のときについて示す。

$$z_1 = \frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha}, \quad z_2 = \frac{\gamma - 0}{\beta - 0} = \frac{\gamma}{\beta} \quad \text{とおくと、} z_2 \neq 0 \text{ であり、}$$

$$z_1 = \frac{(t_3 + t_3^2 i) - (t_1 + t_1^2 i)}{(t_2 + t_2^2 i) - (t_1 + t_1^2 i)} = \frac{(t_3 - t_1)\{1 + (t_3 + t_1)i\}}{(t_2 - t_1)\{1 + (t_2 + t_1)i\}}$$

$$z_2 = \frac{t_3 + t_3^2 i}{t_2 + t_2^2 i}$$

※より、

$$z_1 = \frac{(t_3 - t_1)(1 - t_2 i)}{(t_2 - t_1)(1 - t_3 i)}$$

したがって、 $z_2 \neq 0$  より、

$$\begin{aligned} \frac{z_1}{z_2} &= \frac{(t_3 - t_1)(1 - t_2 i)(t_2 + t_2^2 i)}{(t_2 - t_1)(1 - t_3 i)(t_3 + t_3^2 i)} \\ &= \frac{(t_3 - t_1)(t_2 + t_2^3)}{(t_2 - t_1)(t_3 + t_3^3)} \in \mathbb{R} \end{aligned}$$

よって、上図より、

$$\arg z_1 = \arg z_2 \Leftrightarrow \arg \left( \frac{\gamma - \alpha}{\beta - \alpha} \right) = \arg \left( \frac{\gamma - 0}{\beta - 0} \right)$$

なので、円周角の定理の逆より、 $A, B, C, O$  は同一円周上にある。  $\square$